

Die Eiche

ディ アイヘ
http://www.jdg-chiba.com

Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナッシングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

ドイツ大使の講演会実施される

-日本の印象と日本の役割への期待-

～日独関係から～

11月7日、ホテルグリーンタワー幕張 20Fの瀟洒な会場でイーナ・レーペル大使による講演が行われました。

冒頭、大使は、何故、千葉県日独協会での講演会にお声がけをなされたのかに触れ、広報活動やドイツ人奨学生との交流など多様な活動をしている当協会のメンバーとお話があったと述べられました。



イーナ・レーペル駐日ドイツ大使館大使

東京に赴任されてから2か月であることから、新鮮な目で日本の印象を語られましたが、日本人に対しては、礼儀、仕事に対する誠実さを挙げられ、着任早々、Suicaカードを置き忘れたにも関わらず戻ってきたエピソードを語られました。同時に整備された交通機関、運航時間の正確さ、車内における規律、清潔感も印象的であるとされました。また、食文化について触れ、新鮮なより健康的な食文化とそれに重きを置く姿勢が、長寿であることを支えているのではないかとされました。一方、ドイツにおいては、衣食住の内、住居に対する重きが置かれているという側面を対比されました。

2021年には日普修好通商条約締結160周年を迎え、長期にわたる良好な日独関係が存在しますが、大使は、日独交流の出発点は、文化、生活、風土面でお互いが魅了、関心を持ったことが発端であろうとされ、経済、政治的なつながりは、その後に深めていったのではないかとされました。

現状の日独交流については、政治、外交の交流にとどまらず、学術レベル、市民レベルでの交流がなされていることを示されました。具体的には、Goethe Institut, DAADなどのドイツ文化交流団体は、ほとんど日本に拠点を置いており、大学交流では、770件以上の共同研究、日本からドイツへの留学生は、2200人以上、ドイツから日本へ留学生は、880人の規模と説明されました。市民レベルでの交流では、日本における日独協会の拠点数は、56、ドイツにおける日独協会の拠点数は、50となっています。自治体レベルの連携では、市町村レベルで60、州レベルで5つの姉妹都市提携がなされています。来年のオリンピック、パラリンピックでは、17の市町村がドイツのホストタウンとなっている点を挙げられ、広範な日独交流の状況に大使自身が驚かれたそうです。一方、特定分野では、再生エネルギー、スーパーコンピュータでの交流もなされていると紹介されました。政治面では、2月にメルケル首相と安倍総理との会談、天皇陛下の即位の礼では、シュタインマイヤー大統領が来日、次世代の未来型社会 Society 5.0や少子高齢化問題などを有識者と会談、トップ会談で成果を出しているとのことでした。

経済面においても両国の関係は、順調で昨年の貿易総額は、425億ユーロで伸びています。日独双方、重要な貿易相手国であり、一部の製品は、競合関係にはあるものの、消費者にとっては、選択肢が増えることにて

イーナ・レーペル大使をお迎えして

千葉県日独協会 会長 金谷 誠一郎

9月5日に発生した台風第15号は、関東地方に上陸したものとしては観測史上最強クラスの勢力で9月9日に上陸後、初めて千葉県を中心に甚大な被害を出して去り、電気、水道などの復旧の遅れがトップニュースになっていた9月18日に、大使館より、「イーナ・レーペル大使が11月7日に森田知事に面会に行かれ、帰りに千葉県日独協会で講演をしたいと希望して居られるので、対応可能か否か9月25日までに決めて欲しい」との連絡がありました。あまりに突然のお話でしたが、新任大使に講演をしていただけたとの願ってもない吉報に、早速21日に役員会を開催、当日の段取りを決めて、先ず杉田事務局長とホテルに電話を掛けましたが殆どのホテルが予約済み。ほぼ絶望？と思われた所で運良く幕張メッセ近くのホテルに空きが見つかり予約、次いで講演の演題を「日本の印象と日本の役割への期待～日独関係から～」として10月5日付けで会員宛に手紙を発送、招待者を含めて60名の参加者で開催することが出来ました。大使館のホームページによれば、新大使の略歴は、キール大学、ボン大学、米国インディアナ大学ブルーミントン校で経済学を専攻され、外務省に入省後は、タイ、バキスタン、ジョージアなどの大使館及び外務省国連安全保障理事会担当課長などを経て2017年からはドイツ外務省アジア・太平洋局長として活躍されたとの事。ご講演の内容も、誰にでも分かり易い表現でお話していただき、参加された皆さんにはとても好評でした。大使及び文化部の皆様には、心より御礼申し上げます。



双方にとって有効と捉えています。

大使は、日独共通の課題を提示、その解決に向けた協業を期待しておられました。挙げられた課題は、まず、国内の人口動態の変化、即ち、少子高齢化、労働力人口の減少、専門人材の不足。都市部への人の流入による地方の過疎化。労働力不足に対しては、高齢者の雇用促進、女性就業率の高度化、外国人材の受入れ促進、技術分野の促進の方向性を提示した上で、日独それぞれ比重の置き方に違いはあるものの双方の取り組みを共有して課題解決にあたるのが良いとされています。

上記の課題に対して日本に対する期待としては、技術的イノベーションの領域での協業、技術的なリーダーシップを取っていくこと、同時に経済、貿易の面において現在の保護主義の高まりに対して、この2月に日本EU間で締結、発効した「日EU経済連携協定（EPA）」を軸にオープンな貿易を推進する点での連携、協力であるとされました。

その上でお互いの価値を共有する上で良好な関係を維持するには、距離間を越えた市民レベルでの情報交流が必要であり、インターネット、SNSでの情報交換、意見交換を行い、市民社会レベルでの交流も重要となります。日独協会に期待する領域もここに位置付けられます。

講演後、活発な質疑応答がなされ、引き続き、和やかな懇親会では、大使を囲んで活発な意見交換が行われ大使との示唆に富んだ貴重な時間を共有することができました。（理事・編集委員 勝見 浩明）



- ドイツ大使以外のご来賓名(敬称略)：千葉県総合企画部国際課 小野室長、高谷氏、船橋市 松戸市長、習志野市 諏訪副市長、麗澤大学 草本淳教授
- 台風、豪雨による千葉県の被害に対して大使より武官より託された義援金が金谷会長に手渡されました。

2019年ドイツ軍人慰霊祭

-武官カルステン・キーゼヴェッター陸軍大佐着任される-



第25回ドイツ軍人慰霊祭が当協会の主催により、ドイツ「国民哀悼の日」に合わせて11月17日(日)、午前11時から船橋市営習志野霊園にて執り行われました。

当日は天候にも恵まれ、多くの参列者のもとで厳粛且つ盛大な慰霊祭となりました。

来賓としてドイツ大使館からは、ライボルト前陸軍大佐の後任として武官カルステン・キーゼヴェッター陸軍大佐に参列いただき、さらに、陸上自衛隊第一空挺団、千葉県、船橋市、習志野市及び教育委員会、自治会からの関係者を迎え、会員33名を含めて約150名の参列者となりました。

杉田事務局長の司会進行にて参列者黙祷の後、例年通り山岡先生の指揮による県立千葉女子高校オーケストラ部の演奏に合わせ、習志野第九合唱団員及び参列者により Deutschlandlied (ドイツ連邦共和国国歌) がドイツ兵30名の眠る慰霊碑の前で斉唱されました。

金谷会長は追悼及び慰霊の辞において、来賓及び参列者にお礼を述べるとともに、第一次世界大戦の話に触れて「当時の収容所の所長は、西郷隆盛の子息、西郷寅太郎であり、国際法に基づき人道的に対処し、捕虜の人たちも自由な雰囲気の中で地元住民とも交流があり、ドイツの文化を残してほとんどの方は帰国されたが、30名の方がスペイン風邪で亡くなり残念です。ご冥福をお祈りするとともに世界の平和を祈ります」と挨拶。(独語通訳: 青壮年部 竹内 優さん)。

来賓のキーゼヴェッター陸軍大佐からは、日本語にて当協会及び関係者の方々に大切にいただいていることは、国民を結ぶ友情の表れであり心から感謝します。個人としては、祖父の弟がチンタオからの捕虜で大分の収容所で病死したと聞いている。未だ世界には争いが

あるが悲惨な戦争を二度と繰り返さないようにしたい。」との挨拶がありました。

船橋市、習志野市の両副市長及びその他来賓の挨拶に続き、本橋理事が御霊の紹介として、収容所で亡くなった30名のドイツ人兵士全員の名前、階級を心を込めて読み上げました。

会場には習志野第九合唱団及び千葉女子高オーケストラ部による軍人葬送歌「戦友」が流れ、静寂な慰霊祭のムードが一段と高まりました。

最後に、千葉女子高オーケストラ部の演奏するハンス・ミリエス作詞作曲「閉じておくれ僕の瞳を」の哀愁を帯びたBGMが会場に流れる中で献花が行われました。武官に続き、参列者全員が慰霊碑の前に白菊をささげ冥福を祈りました。

その後、直会が陸上自衛隊第一空挺団の建物内で行われ、会長の挨拶では習志野市役所で来年1月に開催予定の「ドイツ兵捕虜解放100周年行事」が紹介され、続いて武官から日本語で関係者へのお礼と、皆さんと会食ができてうれしい、との挨拶があり、より一層友好ムードが高まりました。

第一空挺団、中道広報室長の挨拶、橋口名誉会員による献杯の後に、会食、懇談を挟んで本間理事から慰霊祭の成り立ち(Die Eiche 91号の記事)が読み上げられ、加藤吉昭氏(故人)、花井清氏(同)、林静誠氏の3氏のリードで1995年から慰霊祭が始まり、25年間続けられていることが伝えられました。

鎌倉から参列した鎌倉学園高校教諭の神田氏は、「若い頃ドイツに在住していたがこのような慰霊祭が行われていることに感銘し会員ではないが参列させていただきました。学生達にも伝えたい。」との挨拶がありました。

締めくくりとして、ボトルシップ研究会会長、カウルの日記翻訳中の宗宮名誉会長から閉会の辞が述べられ、厳粛の中に和やかな直会は、一本締めでお開きとなりました。

来年度も多くの方々の参加をお待ちしております。

(理事・編集委員: 志賀 久徳、写真撮影 理事: 田中 正延)

■ドイツ大使館陸軍大佐以外のご来賓名(敬称略): 中道 尉・陸上自衛隊第一空挺団広報室長、小野文弘・千葉県国際課国際交流友好室長、高谷 慶・千葉県国際課国際交流友好室主事、山崎健二・船橋市副市長、諏訪晴信・習志野市副市長、小熊 隆・習志野市教育委員会教育長、岩島真一・船橋市習志野自治会長



慰霊碑に献花する大佐



慰霊碑に献花する千葉女子高生徒



慰霊祭全景



慰霊祭で挨拶する大佐



慰霊祭で挨拶する会長



直会で挨拶される大佐



鎌倉学園高校教諭 神田氏

デュッセルドルフの生活を振り返って



ドイツと私 - 石元 成子

デュッセルドルフに駐在している会社員と結婚したので、挙式を済ませた4日後の1979年5月5日にドイツへ旅立ちました。abcもわからぬまま辞書とお祝いにいただいた料理の本をトランクに入れ、不安を抱えながら飛行機に乗りました。

住まいは大家さんの自宅の2階を借り家事全般を教えて頂き、ドイツ流の生活を垣間見ることができました。言葉を覚えるために駐在員の奥様向けのドイツ語教室に通いました。講師は日本人で買い物とレストランでの注文の仕方をまず習いました。授業の帰りに、復習を兼ねて八百屋などに立ち寄り夕食の買い物をしました。また、日本人のためのドイツ料理教室にも通いました。そこで知り合った奥様たちからもパンやケーキの作り方を教わり、自宅にお客様を招く機会が多かったのでとても役に立ちました。肉屋には日本人向けに「Sukiyaki Fleisch」と言って牛肉をスライスして配達してくれる便利なサービスがあり時々利用しました。



大家さんと自宅の前で撮影

日本でも話題になっていますがエコロジーの精神が当時から根付いていたように感じました。スーパーのレジ袋は、有料でしたのでいつもエコバックを持っていました。野菜や果物はバック売りではなく量り売りでしたので必要な分量だけを買うことができました。調味料や保存食品は、瓶入りが多く使用後の瓶は回収ボックスに返すというサイクルのシステムが整っていました。初めて外国に住んだ私でも環境に優しい生活を身に付けることができました。



知人宅でのひととき（筆者左端）

ドイツ人は男女問わず甘いものが好きで街中ではサラリーマンがアイスを片手に歩いたり、ケーキ屋の前で「Ich möchte gern」と言いながら真剣にショーケースを見ている姿をよく目にしました。ケーニクスサレーにハイネマンというカフェがあり、ムースやクリームが何層にも重なったケーキを初めて食べた日は、感激しました。その後もよく通いましたが、ある時テイクアウトの方が値段が安いことに気づき、軽減税率の存在を知りました。それからは家に持ち帰り自宅でケーキを楽しみました。



手作りのケーキ

2年の滞在中には、日本人会の運動会や慰問団による落語会、ライン川の冬の花火にワイン祭りなど様々な行事に参加し、あっという間に帰国の日を迎えました。

元号が令和になり、「人生100年時代」と言われています。ある時テレビ番組で若い頃に親しんだことを再び始めているシニアの特集を目にしました。ドイツで料理やお菓子作りを好きになったことを思い出し、もう一度習ってみたいとドイツ料理教室を探しましたが、なかなか見つかりませんでした。ついに日独協会にたどり着き、不躰にも問い合わせの電話をかけたところ入会を勧められ今日に至っています。昔を懐かしみながら料理を通じてドイツとの関係を深めていきたいと思っています。

第1回 食べ歩き会報告

<ドイツパンの店 タンネ>

10月3日（木）と10月26日（土）の2回にわたって青壮年部主催の新企画、食べ歩き会が実施されました。今回訪れた日本橋浜町にあるドイツパンの店「タンネ」は、本格的なドイツパンが作られていることで有名なお店です。各回定員10名のところ両日とも8名の申し込みがあり、当日は案内役を入れてそれぞれ9名、7名の参加でした。



食事のあとの満足感が伝わります

用意されたランチは、ソーセージ2種、ハム、サラミ、チーズ、ピクルス、サラダ、卵、蜂蜜とジャムのかかったヨーグルトが美しく盛られた特別ランチプレートと、食べ放題のドイツパン、ソフトドリンクでした。ソフトドリンクには珍しいドイツのハーブティーもあり、ドイツパンも多種多様で大変美味しく手が止まらず、話も弾みました。中には別払いでビール、ワインを頼む参加者も出ました。



3日は、金谷会長の案内で食後に街歩きも行われ、文人縁の地やお店を見ながら証券取引所へ行き、見学しました。26日は、店主より食前にドイツパンにまつわる話と資料を頂き、ドイツパンの食べ方など興味深く聞くことができました。

両日とも天候に恵まれ、それぞれ美味しいパンを土産に買って満足して帰路につきました。（理事・編集委員：土屋 有里）

●食べ歩き会は今後も引き続き企画中です。お店のリクエストも随時受け付けております。

ボトルシップ研究会活動報告

『エーリッヒ・カウルの日記』を翻訳する会

はじめに、本年9月3日付けで習志野市所有の「エーリッヒ・カウルの日記」が「ヨハネス・ユーバーシャル博士旧蔵写真」と「ボトルシップ」とともに「ドイツ捕虜関係資料」として習志野市指定有形文化財に指定されたことを報告いたします。

また、収容所にいた捕虜が1920年に祖国へ完全帰国を果たしたことから、習志野市主催で2020年1月に「ドイツ捕虜解放100周年記念行事」が開催されます。当協会は14日（火）～26日（日）までパネル展示を行い、また26日には、宗宮好和名誉会長と『ドイツ兵士の見たニッポン』（丸善）の執筆者星昌幸氏による講演会が予定されています。詳細は、同封の案内状をご覧ください。



東京俘虜収容所（浅草本願寺）時代のカウル（左）
* 習志野市提供画像

一方、今年1月に始動した『エーリッヒ・カウルの日記』を翻訳する会』は、年内に終了する予定です。4月からは、従来の金曜日に加え、土曜日の勉強会も始まり、2名が新たに加わりました。宗宮名誉会長と8名の参加者で、A4版189ページもの膨大な量の日記を訳しました。勉強会としては終了しますが、残す作業は内容精査、文章校正、注と解説の作成等があります。完成した折にはまた皆さんに報告をいたします。（理事・編集委員：本橋 緑）

ドイツ関連イベント活動報告

■いちかわドイツデー

今年の「いちかわドイツデー2019」は、真夏とも感じるほどの暑さのなか10月5日（土）、3年ぶりとなるニッケコルトンプラザにて午前11時から行われました。

イベント内容は、市川市がパートナーシティを締結しているローゼンハイム市をはじめとするドイツの文化を、食や音楽を通して紹介するもので、ドイツビール・ソーセージ等の飲食物やドイツ雑貨販売のほか、演奏や両市交流の紹介など、盛りだくさんの内容でした。

当日の来場者は予定の18,000人を上回る盛況ぶり、当協会のブースにも（来場者にもっとも目立つ入口から一番目の場所）、見学者他、数名の入会希望者が立ち寄りしました。ブース内には協会の活動部門ごとの写真を展示し、来られた方には、会員が当協会や展示写真について丁寧に説明していました。（常任理事：吉川 三朗）



■習志野ドイツフェア

台風の到来により一週間延期された習志野ドイツフェアが10月19(土)～20(日)にJR津田沼駅南口モリスア前の広場に無事に開催され、当協会もパネルの展示を行いました。初日のオープニングセレモニーでは当協会から橋口名誉会員が挨拶、今年5月に千葉県とデュッセルドルフがパートナーシップ提携を結んだことなどを紹介していました。当ブースがあるモリスア2階は人の往来が活発とはいえませんが、立ち寄っていただいた方には用意したクイズと駄菓子子をきっかけに協会の紹介をし、展示物の説明をすることができました。

（理事・編集委員：本橋 緑）



■ドイツフェスティバル

日独交流150周年の2011年には国内で多くの記念行事が開催されましたが、最後がドイツ大使館主催の「ドイツフェスティバル〜絆をつなごうドイツと日本」（同年10月23日）でした。これは文化、グルメを通じて日独の文化・伝統の交流を目的に実施された他、東日本大震災の被災者支援の為の行事も多く、イベントは大盛況となり、「来年も是非開催して欲しい」との強い要望により、以降毎年10月末～11月初めの4日間に開催されて今年が11回目。本年は11月1日～4日に例年通り都立青山公園で開催され、初日の夕刻にはレーベル大使が開会式で挨拶されました。会場は入口の門を入ると右側に飲食店、左側にドイツパンを始めとする各種物販店が並び、ドイツの町を歩いているような感じ。そして中央部にテーブルと椅子が並んでいて簡易屋根があるので、雨でも食事、休憩が出来る。又、今年はベルリンの壁がなくなって30年という事で、壁に見立てた境界が作られ、中に入るとイベント用舞台とテーブル、椅子が並べて有り屋根付き。不安定な天候の為、会員への告知が遅れましたが、11月1日、3日に合計9名でドイツの町歩きとビールを楽しんで来ました。（会長：金谷 誠一郎）



挨拶するレーベル大使（右）



お知らせ

■2020年ドイツ研修旅行実施見送りのお知らせ

当協会では2006年より通算6回のドイツ研修旅行が実施されました。2020年も昨年に引き続き研修旅行を執り行うべく、今年春に旅行委員会を立ち上げ検討を積み重ねてきました。しかしながら日本側はオリンピック・パラリンピックイヤーにあたり、ドイツ側ではメッセやオーバーアマガウで開催される10年に一度の受難劇、ボンで行われる数多くのベートーベン生誕250周年記念行事等さまざまな要因が重なり、見積りもりの各種料金やキャンセル条件など全体的にとっても厳しいものでした。旅行会社担当者とも交渉を重ねましたが状況は改善されず、2020年ドイツ研修旅行見送りという結果にいたしました。大変残念ですが、各種イベントが終わった2021年に再度計画をする予定ですので、皆さまのご理解をお願い申し上げます。（旅行委員会）

■2019年度ドイツ語講習会開催見送りのお知らせ

今年もドイツ語講習会を開催すべく検討してきました。講師数名に依頼しましたが、どなたも本業ご多忙につき調整できず、講習会の実施を見送ることにいたしました。なお来年度開催に向けて調整を進めていきますので、皆様のご理解をお願い申し上げます。（運営委員会）

書籍/Buch

映画「戦場のピアニスト」でユダヤ人ピアニストを庇い救ったドイツ国防軍将校 Wilm Hosenfeldの伝記。ピアニストは、この将校の助けにより生き残ることができたが、彼自身は、戦後、ソ連の収容所に7年抑留後死亡。二度と故郷の地を踏むことはできませんでした。ユダヤ人迫害という組織的犯罪の中で良心を持った人間が家族に宛てた手紙等を通じて何を感じたのか知ることができます。Hermann Vinke 著、ARCHE社
AMAZON 2,801円 税別（理事・編集委員：勝見 浩明）



今後の予定

- | | |
|----------|--|
| 1月14-26日 | 習志野市・ドイツ捕虜解放100周年記念行事
場所：市庁舎GF市民協議スペース、1階展示室 |
| 1月25日 | 第3回トールペインティング教室
時間：13:00-16:30
場所：船橋市中央公民館 5階 第5会議室
講師：西川 珠子先生 募集人員：10名 |
| 2月8日 | 新春講演会
講師：NRW州代表、日独協会理事 Georg K. Loer氏
時間：15:00-
場所：別途ご案内
●懇親会も講演会後に開催されます（詳細別途ご案内） |

会員情報

- | | |
|------|---|
| 新人会員 | 角川 与宇 浦安市
太田 吉宏 市川市
大野 亘児 市川市
坂田 博 船橋市 |
| 法人会員 | 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、
（株）京葉ビル管理、（株）和幸電気工事、
メルセデス・ベンツ日本（株）習志野事業所 |

編集後記

11月、イーナ・レーベル大使、カステン・キーゼヴェッター陸軍大佐とお会いできる機会を得て、示唆に富むメッセージを頂きました。日独連携においては、政治、経済の枠組みとは別に市民社会での交流による国民レベルでの共通認識が必要とのことでした。この意味からも我々の千葉県日独協会は、ドイツの市民レベルとの交流がますます必要になっていると感じました。また、大使のご説明の中で日独交流のきっかけは、お互いの文化、生活、風土的な面に関心を持つ交流からスタートとありますが、まさにノーボルトの日本における活動、また数々のコレクションは、日本に対する関心であったと思います。話は変わりますが、年末になると喜歌劇「こころ」の上演が多くなります。背景は、その原作となるアンリ・メイヤックとリュドビク・アレヴィの描いた喜劇「夜食（Le Réveillon）」（クリスマスイヴや大晦日の祝宴）に基づくものだからそうです。（勝見 浩明）